

希望と笑顔に満ちた「持続可能なまち」を目指して

# 令和8年度 市長施政方針



この4月からスタートする第二次山陽小野田市総合計画後期基本計画は、令和8年度から令和11年度までを計画期間としております。平成30年度から12年にわたる第二次山陽小野田市総合計画全体の期間の中でも最後の4年間となる、いわば集大成の期間となります。

我が国全体の人口、特に生産年齢人口が減少していく局面を迎えた中で、地域活動や労働力を支える人材の減少、経済活動の縮小に伴う税収減の一方、社会保障費の増加、市民ニーズの多様化、公共施設の維持管理費用の増加、さらには物価の高騰等により、全国的にも行財政運営の厳しさは以前にも増してきているところです。

こうした資源制約下においては、行政だけが主体となって持続可能な地域社会を維持していくことが困難になってきている現実を直視した上で、このまちを守り、つくり、そして育てていくことが、現世代に課せられた崇高な使命であると深く胸に刻んでおります。

そして、この打開策は「官民連携の推進」と「関係人口の創出」にこそあると考えます。「協創」の理念の下で行政と民間とが主体的に参画して地域の魅力を最大化していく手法の一つが「官民連携」であり、定住人口や交流人口といった概念を越えて、継続的に本市の発展に貢献していただける方々を増やしていくことが「関係人口の創出」であることを念頭に、後期基本計画の策定に当たりました。

まず、重点施策として三つの柱を掲げております。一つ目は「活力あふれるまち」。誰もがいきいきと暮らし続けられるよう、安全な暮らしを基盤としながら、まちの活力増進を図ります。

二つ目は「笑顔あふれるまち」。市民による主体的な地域づくりや、「こどもまんなか社会」の実現に向けた取組を通じ、まちに笑顔を広げていきます。

三つ目は「魅力あふれるまち」。文化・スポーツを含む本市の魅力を充実・活用し、効果的に発信することで、まちの魅力を高めていきます。

また、施策の展開に当たって四つの横断的取組の一つである「DX・GXの推進」の中でも、GX、グリーン・トランスフォーメーションの推進は、現在、国が非常に力を入れており、国際的な産業競争力強化の取組が進められています。山口県においても、本市の宇部・山陽小野田地域コンビナートを含む「GX戦略地域の形

成に向けた全体構想」等を国に提出し、GX戦略地域への採択を目指しています。

本市も目指すべき脱炭素社会の姿を明らかにするため、令和6年6月に「山陽小野田市GX推進指針」を策定し、具体的な施策の検討を重ねてまいりました。

そして本日、この実行計画として「山陽小野田市GX推進アクションプラン」を策定し、公表いたします。基本理念である「産業競争力と持続可能性を兼ね備えたエネルギーダイバーシティ」の下、市民、事業者、大学、団体、行政等の様々な主体が一丸となって地球温暖化対策と地域振興の両立に取り組み、2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ」を目指すことを、ここに表明いたします。本市には、多様なエネルギー産業や優良な企業群に加え、薬学・工学の研究拠点である山口東京理科大学、更には市民等との協創によるまちづくりといった、経済社会を変革する大きなポテンシャルがあります。こうした特性や強みを踏まえ、山口県をはじめとする関係機関との連携を一層深め、「GXコンビナートへの転換」や「新産業の創出・育成」を力強く後押しし、経済・環境・暮らしのあらゆる面で持続可能性の高いまちづくりを目指します。

令和8年度は後期基本計画のスタート年であるとともに、第二次山陽小野田市総合計画12年間における「スマイルシティ山陽小野田」の達成に向けたラストスパートをかける年ともいえます。冒頭申し上げましたとおり、行財政運営は以前にも増して厳しさが増してきています。しかしながら、このような時だからこそ、未来を見据え、未来のまちづくり、まち育ての責任を果たすことが求められるのではないかと、そのような考えを根底におき、令和8年度「未来への希望につながる投資予算」を編成しました。私が描く未来の山陽小野田市は、市民一人ひとりが希望と笑顔に満ちた「持続可能なまち」の姿です。その実現の力は、みなさまの「自ら考え、行動する」という will-being の尊い意志にこそ宿ると確信しています。「協創」のパートナーである市民、各種団体、学校や大学、企業、市議会のみならず、より一層力を合わせながら、市職員一丸となって取り組んでまいりますので、引き続き、みなさまのご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

3月市議会定例会の演説から抜粋